

## 第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

平成29年 9月11日(月) 5校時

高原小学校 6年1組 男子18名女子16名計34名

授業者 宮里 典

共同研究者 與那嶺隆男 金子大地 瑞慶山麻里

### 1. 単元名 「平和」について考える ～沖縄戦を通して～

#### 2. 単元目標

- (1) 沖縄戦について、インターネットや図書資料、新聞等を用いて調べたり戦跡めぐりを通して壕での様子を見学したりすることで、その悲惨さについて知ることができる。
- (2) 友達と協力し、分かったことや平和について考えたことをまとめたり、伝えたりすることができる。
- (3) 平和な世界を築こうとする意識を持ち、自分たちの生活のなかで何ができるのかを考えて行動することができる。

#### 3. 教材について

##### (1) 教材観

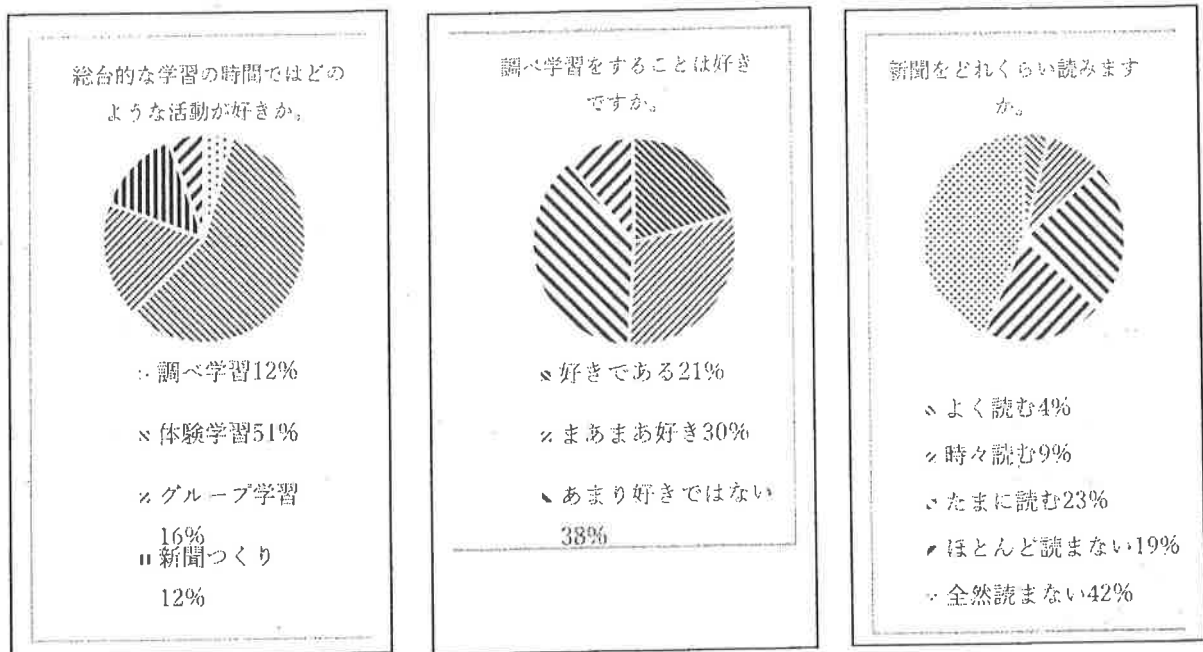
沖縄県は、日本で唯一地上戦が行われた土地である。そのため、非戦闘員である多くの住民が犠牲となった悲惨な歴史がある。その中で沖縄県では「慰霊の日」や「終戦記念日」に特集番組や講演会等が取り上げられるほど、児童にとっては平和学習が身近にあり、学習環境が整っていると考えられる。しかし一方で戦後72年がたち、戦争体験者が年々少なくなり、体験談を直に聞くことができなくなることで、若い世代を中心に戦争への意識が低くなるとともに平和への関心が少なくなっている現状があげられる。そのため、沖縄戦を通して自ら平和についての課題意識を持たせ、学習に取り組ませることが大切である。さらに、単に「平和学習」に終始するのではなく、人権問題や社会問題としてとらえるきっかけにしたい。

##### (2) 児童観

児童には、事前に「総合的な学習の時間」についてのアンケートを実施した。その結果、7割の児童が総合的な学習の時間が好きだと答えている。しかし一方で、約半数の児童が調べ学習をすることに抵抗を感じている。その原因として、児童は「何を調べたらいいのかわからない」「調べ方がわからない」と答えている。そのため調べ学習を始める際には、テーマ設定や調べ方の方法についてしっかりと時間を確保し、考えさせる必要がある。新聞のまとめ方については、社会科の授業において歴史新聞に取り組んできた。しかし、資料を丸写ししたり、自分の言葉でまとめたりすることを苦手としている児童がいる。

また、沖縄戦については、学校や地域で平和講演会や平和集会等で学んできている。また、家庭においても約7割の児童が沖縄戦について話をしたことがあると答えた児童がいる。しかし、沖縄戦について知っている内容は、「アメリカと戦争をした。」「多くの子どもや地域の人々が亡くなった。」「学徒隊」「対馬丸」といったように、単純な内容で、具体的なことについてまでは理解できていない児童が多い。

また、NIEとの関連では、「新聞をとっていない児童」が57%、「新聞を読まない」、「ほとんど読まない児童」は合わせて61%となっている。読まない、ほとんど読まない理由としては、「新聞が身近にない」「興味がない」と答えている児童がほとんどをしめている。



### (3) 指導観

平和学習をするにあたり、沖縄戦について書かれている本や新聞の記事、特集等の読み聞かせをすることで平和や沖縄戦について興味関心を持たせてきた。児童はこれまでに平和や沖縄戦について、多少の知識を持っていると思われる。しかし、テーマ設定の仕方や沖縄戦について、具体的に何を調べたらいいのかわからないと感じている児童が多い。そのためウェビングをし、具体的にキーワードとなる言葉をあげさせることにより、学習テーマや沖縄戦について自分の調べたいことを決める手助けになると考えた。

実際に調べ学習をする段階では、自分が興味を持った沖縄戦の内容について本やインターネット、新聞の記事等を中心にグループで調べ学習を進めさせる。同時に、南風原病院壕や平和祈念資料館の見学を通して、知識だけではなく肌で戦争体験を実感させることにより、戦争の歴史を身近なものとして捉えさせたい。

調べ学習や体験学習を通して感じた事を新聞にまとめさせる。その際、実際の新聞記事に触れさせ、まとめ方(5W1Hや文章構成、割り付け、見出しの付け方の工夫等)を意識させて書かせることを通して日常的に新聞に触れさせる環境を整え、記事の読み取りや記事の書き方、表現方法について学ぶことができるよう工夫していく必要がある。

#### 4. 研究主題との関連

本校では校内研究のテーマを「自分の思いや考えを伝える児童の育成～NIE を取り入れた豊かな言語活動を通して～」とし、日常活動に NIE を取り入れ、表現の仕方に着目したり、自分の考えを広げたりするなど言語活動の充実を図り、自分の思いや考えを伝え合える児童の育成を目指している。

##### (1) 総合的な学習の時間における「言語活動の充実」と NIE

新学習指導要領では

- ① 基礎的・基本的な知識、技能の習得
- ② これらを活用し課題解決に必要な思考力、判断力、表現力の育成
- ③ 主体的に学習に取り組む意欲と学習習慣の確立
- ④ 言語活動の充実

をポイントとして掲げている。特に今回は、言語活動を充実させるために、

- 書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
- 本や文章などを読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

を充実させたい。

総合的な学習の時間においては、学校図書館の活用やインターネット、最新の図書や資料、新聞やパンフレットを整理、展示し、映像教材を通して調査活動が効果的に行えるようにすることで学習の充実を図ることができる。また、【まとめ・表現】の活動では情報整理の後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。その際にレポートや新聞にまとめ、写真やグラフ、図などを使って表現することが考えられる。読む相手を意識して、伝えたい事を論理的に表現することで、自分の考えは一層確かなものとなり、言語活動のさらなる充実が図られるであろう。

##### (2) 総合的な学習の時間における「協同学習」

さらに総合的な学習の時間において、特に他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視すべきである。それは多様な考えをもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながるからである。

協同的に学ぶことの価値として

- ① 多様な情報を活用して協同的に学ぶ
- ② 異なる視点から考え協同的に学ぶ
- ③ 力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ

の3つがあげられる。協同して学習活動に取り組むことが、児童の問題の解決や探究活動を持続させ繰り返させるとともに、一人一人の児童の考えを深め、自らの学習に対する意欲の向上へとつながる。

本単元では、「沖縄戦」をテーマに新聞をはじめ本やインターネット、資料館見学などからの情報収集を行い、グループの友達と相談しながら内容の整理・選択し記事にまとめている。そして、新聞として一つにまとめる際に、読み手(相手)を意識した「見出し」を考え、話し合い、決定していく。このような協同的に学ぶ活動を通して、言語活動の充実を図り、自分の思いや考えを伝える児童の育成を目指している。

5. 単元の活動計画（全24時間）・評価規準

時間	学習活動	評価規準	
沖縄戦について知る。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメンタリー「マブニからのメッセージ」を観て、70年前の沖縄戦について知る。</li> </ul>	◎沖縄戦について興味を持ち、自分の課題を見つけることができる。	
見通しをもった学習計画を立てる。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄戦」についてウェビング、各グループの学習計画を立てる。</li> <li>各グループの調べたいこと／調べたい理由、方法と役割分担／活動日程を決定する。</li> </ul>	◎見通しを持ち、解決するための計画を立てることができる。 ○みんなと協力し、お互いの良さや違いを認め合うことができる。	
それぞれの計画に従って活動する。(8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やインターネット、書籍・資料から必要な情報を集め、自分のテーマについて調べる。</li> </ul>	◎自分の課題に必要な情報をいろいろな方法で集め、その中から自分の課題解決に必要な内容を選び、まともに生かすことができる。	
戦跡めぐりに出かける。(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>南風原病院壕跡を見学し、当時の戦争状況の凄惨さを体感する。</li> <li>平和祈念資料館を見学し、沖縄戦全体の概要について再確認し、自分のテーマについて調べる。</li> </ul>	◎沖縄戦について興味を持ち、自分の課題を見つけることができる。 ○追及活動の中で、共に学び、考えを深めることができる。	
平和新聞を書く。(4)	1	記事の割り付けを考え、記事を書く。	◎調べた内容が伝わりやすいように、自分なりの方法で記事にまとめることができる。 ○友達と意見を交換しながら学び、自分の考えをまとめたり発信したりしている。 ○自分の考えを伝えるため、記事の内容を要約し効果的な見出しを付けることができたか。
	2		
	3	見出しを考える。 ・記事の5W1Hをとらえ、内容や効果を考えながら、適切な見出しを考える。	
	4	見出しをつける。 ・グループごとにすべての記事に見出しを付ける。	
平和新聞の発表会及び学習の反省をする(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会を通して、互いの作品の良さについて意見を書き出し、共有する。</li> <li>学習内容をふりかえりながら、今後も継続的に活動や意見の発信につながるよう意欲付けをする。</li> </ul>	○みんなと協力し、お互いの良さや違いを認め合うことができる。 ○学習を振り返り、感じたこと、考えたことを文章に表すことができる。	

6. 本時の指導 (22/24)

(1) ねらい

・平和学習のまとめとして、調べてきたことや自分の考えを伝えるため、グループごとに書いた平和新聞の記事に効果的な見出しを付けることができる。

(2) 本時の工夫点

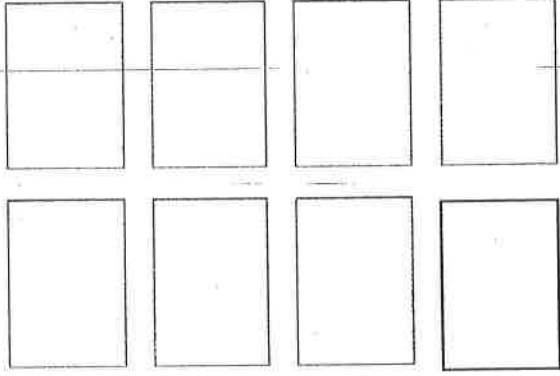
場面	工夫点 (手立て, 方法)	期待する児童の姿や効果
記事の発表を聞く場面	5W1Hや見出し付けの根拠を書き込めるワークシート	内容の要約ができ, 効果的な見出しを付けることができる。

(3) 展開

	学習活動・内容	○指導の工夫 ◎個別の配慮
導入	1. 新聞の「見出し作り」のポイントを確認する。 ・できるだけ10~11文字に収める。 ・読みたくなるような表現になっている。 ・伝えたい内容がひと目でわかる表現になっている。 2. めあてを知り, 本時の学習の内容を理解する。 平和新聞の記事に, 読みたくなる見出しをつけよう	○指導の工夫 ◎個別の配慮
展開	3. 記事の発表を聞き, 5W1Hを見つける。(全体) 4. 記事を書いた人が伝えたかったことを短くまとめ, 特に大切だと思う部分を書き抜く。 5. グループで要約文を確認しあい, キーワードを出し合う。 6. 理由を明確にしながらか見出しをつける。 7. グループごとに発表する。 私は「〇〇〇」という見出しを付けたいと思います。なぜなら, 記事の中の『△△△』という部分をしっかり伝えたいと思ったからです。	◎5W1Hを確認させ, ワークシートに記入できるようにする。 ○なぜ, その見出しをつけたのか理由をもたせるようにする。(グループ) 特に記事の表現方法でよかったことを出し合い, その後の活動の意欲付けとしたい。 ◎見出しを考えるための11文字のマスを準備する。
まとめ	8. 学習のまとめをする。 9. 次時は, 新聞の仕上げにむけてすべての記事に見出しをつけることを知る。	○見出し作りのポイントを再確認する。

評価: 自分の考えを伝えるため, 記事の内容を要約し効果的な見出しを付けることができたか。

7. 板書計画



○考えた見出し

平和新聞をかこう

めあて

平和新聞の記事に、  
読みたくなる見出しをつけよう。

見出しづくりのポイント

- ・ 十〜十二字程度
- ・ 読みたくなるような表現。

8. 座席表

(☆個別配慮が必要な児童)

黒 板

